JAPAN IN NORWICH

ジャパン・イン・
ノリッジ

セインズベリー
日本藝術研究所

2024

64 THE CLOSE

Norwich, NR1 4DH
www.sainsbury-institute.org

SAINSBURY INSTITUTE
for the Study of Japanese Arts and Cultures
セインズベリー日本藝術研究所

2024年を振り返って

25周年記念プログラム

セインズベリー日本藝術研究所は、サー・ロバート及びリサ・セインズベリーご夫妻の寛大な資金援助により1999年に設立されました。 日本文化・芸術の研究と調査を地域や英国内、国際レベルで促進することを目的として設立された本研究所は、2024年に創設25周年を迎えたことを記念し、数々の意欲的なイベントや活動プログラムを展開しました。

先史時代の象徴的な遺跡であるストーンヘンジで開催された「Circles of Stone: Stonehenge and Prehistoric Japan」展を皮切りに、1週間にわたる日本での会議、イベントやレセプションで締めくくられたこの「ジャパン・イン・ノリッジ」プログラムは、研究所の最初の四半世紀を振り返り祝うと同時に、次の25年に日本研究に何をもたらすかを展望することもまた目的としていました。

これらの会議や展覧会、ワークショップ、実演、プロジェクトなどを通じて、私たちの活動を可能にしてくださった支援者の皆様と交流できたこと、そして初めて日本の芸術や文化に触れた新しいオーディエンスとのつながりができたことは嬉しいことでした。

2024年、私たちはこの分野における過去25年間の貢献が認められ、複数の名誉ある賞の栄に浴しました。 7月には、学術や芸術、その他の文化的な活動を通じて、日本と諸外国との国際相互理解と友好親善に多大な貢献をした個人または団体に贈られる国際交流基金賞を受賞しました。 続いて、日本の芸術・文化分野における研究所の活動が評価され、外務省より研究所並びにサイモン・ケイナー教授個人に外務大臣表彰が贈られました。 研究所25周年と時を同じくしてこのような最高の評価をいただいたことは、1999年の設立以来、研究所に関わってきたすべての人々の努力と献身の証であり、その功績が認められたことに他なりません。

「ジャパン・イン・ノリッジ」プログラムやこれまでのセインズベリー研究所の25年間の活動を通して、ご支援、ご参加、ご協力いただいたすべての方々に感謝申し上げます。 皆様には、次の25年に向けて前進する私たちの活動に引き続き協力を賜りますようお願い申し上げます。

数字で見る研究所の1年

2024年もイベントや展覧会、活動を通じて、引き続きオーディエンスや支援者のネットワークを強化・拡大

- プログラム全体で**25,000**人以上の来場者と参加者
- **2件**の外務大臣表彰と国際交流基金賞の**3件**の栄誉ある賞を受賞
- **7つ**の展覧会をノリッジやノーフォーク州、英国各地で開催
- ノリッジやロンドン、日本において**複数**の大規模イベントを開催
- **2点**の出版物を刊行
- **7,000人**を超える購読者やフォロワーのネットワークがメーリングリストやソーシャルメディアを通じて拡大中

研究所のプログラム

セインズベリー研究所設立25周年記念

2023年

2023年9月	ストーンヘンジにおける「Circles of Stone: Stonehenge and Prehistoric Japan」展の閉会式にロンドン和太鼓奏者グループが参加

2024年

2024年3月	アジア研究協会（AAS）のシアトル年次大会開催時に研究仲間や元フェローで構成される国際的な人脈のネットワークのためのレセプションを開催
2024年5月	フォーラムにおける「Nara to Norwich」展では、全長12mにわたる長谷寺・観音御影大画軸のレプリカの展示および迦陵頻伽聲明研究会による一連の声明のデモンストレーション
2024年7月	小布施の北斎館との共同企画で「Hokusai: A Vision Above」展を ウェルズ・ネクスト・ザ・シーのウェルズ・モルティングスで開催 国際シンポジウム「Re:Imaging Production シン・複製」 小布施の北斎館との共同企画で「Hokusai: Art Beyond Boundaries」展を ノリッジ市内のシュー・ファクトリーで開催 神戸のMORISギャラリーとの共同企画で「Tanzaku」展ならびにその他の関連イベントプログラムをノリッジ市内のシュー・ファクトリーにて開催
2024年11月	在英国日本国大使館でのレセプションおよび外務大臣表彰式 ロンドンのロイヤル・アカデミー・オブ・アーツにおいて「日本芸術文化の展望」会議を開催 UEA学長兼セインズベリー研究所執行理事会理事長の訪日 東京での記念レセプション
2024年12月	長谷寺での記念レセプションならびに京都での同窓会ディナー

環状列石

2022年9月から2023年9月にかけて、「Circles of Stone: Stonehenge and Prehistoric Japan」展が、英国で最も有名な先史時代の遺跡ストーンヘンジのビジターセンターで開催されました。 先史時代の日本の豊かな文化を讃えたこの展覧会では、これまで日本の先史時代に触れたことのない多くの来場者に対して縄文時代中期から後期にかけての日本の集落と環状列石の物語が語られました。

2023年8月に開催された本展覧会のテーマを探究する会議に続いて、9月の閉会式ではロンドン和太鼓奏者グループによる演奏が会場で披露されました。

閉会式の視聴はこちらをクリック

AAS2024 シアトル年次大会

権威あるアジア研究協会（AAS）の2024年の年次大会がシアトルで開催されました。この大会では毎年アジア研究を専門とする世界中の学者たちが一堂に会します。 大会初日の3月15日（金）、歴代のロバート&リサ・セインズベリー・フェロー、友人や研究仲間のネットワークを会場近くのレストランに招待し、昼食会を開催しました。

本研究所からは、大会でそれぞれ論文を発表した松葉涼子博士とユージニア・ボグダノワ＝クンマー博士に加えて、渡辺俊夫教授が参加しました。 また、日本学研究センターのシェルゾッド・ムミノフ博士や富澤ケイ愛理子博士も出席しました。 この昼食会は、研究所独自の強みのひとつである学術ネットワークと世界中の名門機関で要職を務める多くの元フェローたちを結びつける格好の機会となりました。

NARA TO NORWICH

2024年5月20日〜25日 ノリッジ、フォーラム

2024年5月19日午後11時、「Nara to Norwich: Arts and beliefs at the ends of the Silk Roads」プロジェクトチームの数名が、奈良の長谷寺から運ばれた12mに及ぶ巨大な観音御影大画軸のレプリカをつり下げるために、ノリッジ市中央図書館（フォーラム）に到着しました。 こうして、長い歴史のあるノーフォーク・アンド・ノリッジ・フェスティバルのプログラムの一部を構成する、さまざまな展覧会や実演、ワークショップ、レセプションが行われた重要な週が始まったのです。 大画軸とともに、シルクロードや「Nara to Norwich」プロジェクトのテーマを掘り下げた高解像度の地図が展示され、さらにはノーフォーク州において2期にわたってフィールドワークが実施された「Later Prehistoric Norfolk Project」展も行われました。

私たちは光栄にも日本から迦陵頻伽聲明研究会（かりょうびんがしょうみょう）をお迎えし、その週を通して、大画軸の展示とともに、そしてノリッジ市内の重要な文化施設において、声明（宗教声楽）のデモンストレーションを行っていただきました。 特に印象に残ったのは、ノリッジ市の中心にある中世のセント・ピーター・マンクロフト教会という歴史的な場で行われた公演です。まず前日のワークショップで同教会の聖歌隊と聲明研究会による音楽の伝統交流が行われ、その翌日の夜には同教会にて180人以上の観客の前での声明のデモンストレーションとなりました（本公演の録画はこちらからご覧いただけます）。 この週は、市内中心部にある研究所で行われたシルクロードをテーマにしたシンポジウムと25周年記念レセプションで締めくくられました。

声明を唱える迦陵頻伽聲明研究会とアトリウムの天井からつり下げられた観音御影大画軸

さらに、この週には、「神宿る島」である沖ノ島から出土した国宝の一部の詳細なレプリカを展示する展覧会がノリッジ大聖堂において同時に開催されました。 「海の正倉院」として知られるこの島には、古代、日本と朝鮮半島間の安全な航路を求めた外交使節団や商人、巡礼者たちによって、東アジアやシルクロードからの多くの貴重な品々が奉納されていました。

公演後の迦陵頻伽聲明研究会とセント・ピーター・マンクロフト教会聖歌隊

フォーラムは、さまざまなイベントが開催されるノリッジ市最大の公共スペースの1つで、1日あたり約5,000人が訪れる場所です。 これまで日本文化に触れる機会のなかった方々がデモンストレーションを楽しんだり、日本の芸術や文化に親しんだりできるような会場でこれらの展覧会を開催できたことを嬉しく思います。 また、多くの来場者から、この観音菩薩がノリッジの中心に文化の交流、理解、そして一体感をもたらしたという感想をいただき、関係者全員にとって忘れがたい感動的な経験となりました。

この週に開催されたイベント報告の全文はこちら

本展覧会と同形式の展示が2025年2月まで在英国日本大使館でも行われました。
詳細はこちらをご覧ください

フォーラムで開かれた「Nara to Norwich」シンポジウム

ノリッジ市中心部にある研究所で行われた記念レセプション

HOKUSAI

「HOKUSAI: A VISION ABOVE」 2024年7月5日～13日、ウェルズ・モルティングス
「HOKUSAI: ART BEYOND BOUNDARIES」 2024年7月17日～25日、シュー・ファクトリー

プロジェクト・リーダーの松葉涼子博士によるレポート全文はこちらから

葛飾北斎（1760－1849）は、おそらく最も有名な日本の芸術家のひとりであり、特に《神奈川沖浪裏》でよく知られています。 晩年を長野県小布施町で過ごした北斎は、その地に2基の祭屋台の天井画や岩松院の天井に描かれた《八方睨み鳳凰図》などの傑作を残しました。

本プロジェクトによって、小布施の北斎館から高解像度の北斎作品の複製が初めて英国に持ち込まれました。 ノーフォーク州北部で行われた「Hokusai: A Vision Above」展では、祭屋台に描かれた4点の天井画である《男浪》、《女浪》、《龍》、そして《鳳凰》に焦点を当てた探究が行われました。 この展示を基にした「Hokusai: Art Beyond Boundaries」展はノリッジ市中心部へと移され、岩松院鳳凰図の大型複製画に加えて複数の北斎の作品や下絵が展示されました。

これらの展覧会に併せて国際シンポジウム「Re:Imaging Production シン・複製」が開催され、展示作品を通して進化を続ける複製・レプリカ分野を探り、デジタル制作というこの日進月歩する分野における応用や利点、微妙な違い、限界などを評価しました。

「『本物』ではないとわかっていながらも、これほどまでに芸術に感動したことはありません。 細部へのこだわりや繊細な筆使い、紙の質感や展示方法によって作品に命が吹き込まれていたのです」

地域コミュニティからの来場者の多くが、通常は日本国内でしか見られない貴重な作品を鑑賞し、探究できることを非常にありがたく思うという声や、本物とレプリカに対する理解が深まったという感想を寄せてくれました。 これらの展覧会には、日本芸術の愛好家だけでなく、休暇中の旅行者、学生、地域コミュニティの人々など、さまざまなオーディエンスが訪れ、葛飾北斎や彼の作品にまつわる数々の印象的な技法について、より深く学ぶ機会が得られたことを恵まれていると感じていました。

「(この展覧会は) 日本芸術の鑑賞のあり方についての考え方を変えてくれました」

本展覧会とプロジェクトは小布施にある北斎館との共同企画で開催されました

作家古城弓子氏による展覧会のために制作されたオリジナル作品《Quiet Conversation》を鑑賞する来場者

展覧会のオープニング・レセプションにてサイモン・ケイナー教授が出席者に挨拶

TANZAKU

2024年7月17日～25日 ノリッジ、シュー・ファクトリー

「Hokusai: Art Beyond Boundaries」展と並行して、MORISギャラリー（神戸）と提携し、ノリッジ市中心部でオリジナルの作品の展示を開催できたことは嬉しいことでした。 短冊とは、俳句や短歌が書かれた細長い形状の紙で、その多くに四季折々の自然の美しさや動植物、古典文学の場面、風景・風習を描いた絵が添えられています。 こういった芸術作品は、江戸時代（1603－1868）の終わりから昭和時代（1926－1989）にかけて、一般家庭の屋内を飾っていました。 この展覧会においては、こういった作品の一部をノリッジに集め、来場者が実際に作品を手に取り、触れて楽しむことができるような展示方法が採用されました。

展示会場では、このテーマをさらに掘り下げる一連のイベントも開催されました。 ナショナル・センター・フォー・ライティングの協力により、短冊作品が生まれた19世紀の茶会の創造的な雰囲気を会場内に再現するために、詩人エリカ・ヘスケス氏による詩の朗読会を開くことができました。 さらに展示会場では、表具師の小田珠生氏をお迎えして一連の掛け軸の表装作業を実演していただいたり、東アジアの茶道を専門とする茶人の渡邊乃月氏に茶会を開いていただいたりしました。 こういった贅沢なイベントプログラムは、東洋の茶会の雰囲気をノリッジに再現することを目的としたもので、大英博物館で現在展示されている「City life and salon culture in Kyoto and Osaka, 1770-1900」についての講演も矢野明子博士によって行われました。 その結果、総合的かつ多面的な体験を通して、日本の煎茶文化が生み出した文化的・芸術的交流の環境について、展覧会を訪れた人々に深い理解を与えることができました。

本展覧会およびプロジェクトは、MORISギャラリー（神戸）との共同企画で開催されました

左上と右下： 展示スペース内での小田氏による掛け軸の裏打ち技術の実演

右上と左下： 渡辺先生がギャラリーの2階で来場者に東アジアの茶道を披露

LONDON EVENTS

2024年11月7日～9日

25周年記念行事は11月に入っても続き、ロンドンの名だたる場所においてレセプションや夕食会、国際会議を開催

外務大臣表彰の授与とレセプション

11月7日、ピカデリー、在英国日本国大使館

ロンドンでの一連のイベントの皮切りに、在英国日本国大使館におけるセインズベリー研究所の25周年を祝うレセプションおよび外務大臣表彰式が行われました。 このイベントには、過去から現在に至るまでの多くの研究所の職員や支援者の皆様、学生、友人が出席し、その週の始めに着任された鈴木浩大使からの表彰により最高潮に達しました。 乾杯の音頭と挨拶は、ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ会長（PRA）のレベッカ・ソルター氏と、セインズベリー研究所執行理事で慶應義塾大学名誉教授の河合正朝教授が務めました。 5月にフォーラムで展示された「Nara to Norwich」展と同形式の展示が2025年2月まで大使館に設置されていました。詳細はこちらをご覧ください。

在英日本国大使館からの表彰式の報告はこちらから

鈴木大使より賞状を授与されたサイモン・ケイナー教授

外務大臣表彰授与のために集まったセインズベリー研究所の職員

王立アジア協会の職員と講演者の方々

会議ディナー

11月8日（金）ロンドン、王立アジア協会

翌日、大英博物館と大英図書館の「Silk Roads」展を訪れた後、光栄にも王立アジア協会で翌日開催される国際会議に登壇する講演者を招いての夕食会を催すことができました。 研究所のシルクロード研究学教授であり、王立アジア協会理事でもあるスーザン・ウィットフィールド教授が、出席者に向けて同協会とその歴史を紹介しました。 和やかな雰囲気の中で翌日の国際会議のテーマについて話し合う機会を得ることができました。また、この夕食会には、鈴木大使ならびに当会議や関連イベントに対し多大な支援をいただいた公益財団法人　石橋財団の西嶋大二氏にも出席いただきました。

日本芸術文化の展望 国際会議

11月9日（土）ロンドン、ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ

プログラム詳細（要旨を含む）はこちらからご覧ください

11月9日（土）、私たちは、日本芸術文化研究の将来の方向性を検討するさまざまなテーマについて講演いただくために、世界中から専門家の方々をお迎えしました。 文化資源としての芸術、芸術と考古学、視覚文化、デジタル・ジャパンをテーマに、学生や研究者、一般市民で構成されるオーディエンスに対して教授陣や先進的な学者、次世代の研究者による発表が行われました。 ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツの由緒ある会場は、終日行われた議論と交流の理想的な舞台となりました。 鈴木大使やレベッカ・ソルター会長、西嶋氏から歓迎のご挨拶をいただいた後、この日の4つのパネルディスカッションに移りました。 各セッションは、4名の日本美術史家の大家である河合正朝教授、小林忠教授、河野元昭教授、辻惟雄教授からのビデオメッセージで始まり、今日の日本芸術文化研究やセインズベリー研究所、そしてこの分野の今後の方向性についてのコメントをいただきました。 これらのセッションは、この分野がいかにダイナミックであり続けているかを捉え、セインズベリー研究所の今後25年間の活動の方向性を示すものとなりました。

RA
ISHIBASHI FOUNDATION
SAINSBURY INSTITUTE
UEA
Looking Forward in Japanese Arts and Cultures
Celebrating 25 years of the Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts and Cultures
Saturday 09 November 2024
Benjamin West Lecture Theatre, Royal Academy
10:00-17:00

RA

RA
Communicating the Appeal of Japanese Art through Digital Technology at Tokyo National Museum
Yumi TAKAGI
Tokyo National Museum

JAPAN EVENTS

2024年11月28日～12月2日

2024年は、UEA学長とノリッジからの代表団一行による有意義な訪日で締めくくられました

2024年11月から12月にかけて、UEA（イーストアングリア大学）学長兼セインズベリー研究所執行理事会理事長であるデイヴィッド・マグワイア教授とともにノリッジからの代表団が日本を訪問しました。 代表団グループのメンバーは、ヘザー学長夫人を筆頭に、サイモン・ケイナー教授（セインズベリー研究所、統括役所長）、ハイディ・ポッター氏（ロンドン・ジャパン・ソサエティ、シニア・アドバイザー）、アラン・ウォーターズ氏（元ノリッジ市議会議長）、ジェイゴ・クーパー教授（セインズベリー・センター、理事）、バロネス・フレディ・ヴァン・ティル（ノリッジ大聖堂、司教座聖堂参事会管財人）、渡辺俊夫教授（セインズベリー研究所、日本芸術・文化遺産学教授）、松葉涼子博士（セインズベリー研究所、日本のデジタル・アートと人文科学講師）、櫻井芳氏（セインズベリー研究所、研究・財務担当）、オリヴィア・バトラー氏（セインズベリー研究所、イベント／プロジェクト・コーディネーター）でした。 これは2018年以来初めての研究所としての訪問となり、参加者はノリッジの多くの主要な文化を代表する人々により形成されたグループでした。

学長が来日する11月27日（水）に先だって、セインズベリー研究所チームとその他の代表団一行は、北斎館や黒曜石ミュージアム、小林達雄教授、長岡市立科学博物館、金沢市役所など、多くのパートナーや友人を訪問しました。 学長の来日後には、石橋財団や慶應義塾大学、東京大学、東芝国際交流財団、国際交流基金を始めとする重要なパートナーと学長が会談するという喜ばしい機会を持つことができました。 その後、日本の友人や支援者の皆様に集まっていただき、感謝の意を表するとともに、当研究所の将来ビジョンについて話し合う一連のイベントが研究所により開催されました。

東京レセプション

11月28日（木）東京、fabbit丸の内

今回の訪日における最初の公式イベントとして、東京駅近くにある大型高層ビルのひとつに120名を超えるお客様をお迎えし、レセプションを開催しました。 研究所の25年間の歴史を通じての研究仲間や支援者の皆様、友人が集まったこのイベントはまさに研究所の成功の土台の一つである素晴らしい人脈のネットワークが象徴されることとなりました。 また、長年にわたりUEAと日本のつながりを深めるために尽力いただいた方々への感謝の気持ちを込めて、多くのUEAの卒業生や協力機関の方々をこのイベントに迎えることができたことは嬉しいことでした。 サイモン・ケイナー教授が開会の辞を述べ、出席者に挨拶した後、デイヴィッド・マグワイア教授へとマイクが手渡され、マグワイア教授が自己紹介を行い、レセプションに集まった多くの支援者の皆様に感謝を述べました。 代表団メンバーが簡単な自己紹介をした後、日本美術史の権威である河野元昭教授と河合正朝教授に乾杯の音頭をとっていただきました。

奈良の東大寺

25周年記念夕食会

11月29日（金）駐日英国大使館

再び東京各地を訪問した翌日の夜、東京の駐日英国大使館で、ジュリア・ロングボトム大使主催の夕食会に参加するという栄誉にあずかりました。 大使公邸の素晴らしい環境は、研究所の支援者の皆様にお集まりいただき、25周年を記念して今後の計画や方向性について話し合う理想的な場となりました。 26名の出席者は、ノーフォーク州の最高の食材を使ったメニューで、日本にいながらにしてノーフォークの味を堪能しました。 この夜、多くの実りある議論が交わされましたが、その結果については、いずれ支援者の皆様に詳しくお伝えいたします。

関西への移動

11月30日（土）

代表団一行は早朝の新幹線で東京から関西へ向かいました。 車内から富士山を一瞬目にした後、奈良に到着し、この地域の数多くの関係者や支援者の皆様とお会いしました。 また、研究所の「Nara to Norwich」プロジェクトの一環として、8世紀に建立された奈良の東大寺を訪れる機会にも恵まれました。 今回の訪問で、様々なプロジェクトを通して研究所が行っている研究に大きな影響を与えている数々の史跡を訪ねることができたことは、代表団にとって非常に貴重な経験でした。

「Nara to Norwich」のオンライン展示は、現在こちらからご覧いただけます

奈良公園の鹿

廻向法要と関西レセプション

12月1日（日）奈良、長谷寺

翌日の早朝、代表団は奈良を出発し、「Nara to Norwich」プロジェクトでも取り上げられたキトラ古墳を目指しました。 この重要な古代の埋葬地には、天文図に加えて、方位磁針の4方位の方角に描かれた玄武（北）、青龍（東）、朱雀（南）、白虎（西）の壮大な壁画があります。

ここから、5月にノリッジにおける展覧会で展示された長さ12メートルの観音御影大画軸のレプリカを所蔵する長谷寺へと移動し、セインズベリー研究所にとっての展覧会後の重要な訪問を行いました。 長谷寺は、紅葉した山々に囲まれた場所にあり、訪問中は紅葉が見ごろを迎えていました。 一行は川俣海淳住職を始めとする寺の僧侶に出迎えられ、自己紹介をし、お茶をいただいた後、簡単な写真撮影が行われました。

セインズベリー研究所をご支援いただいている皆様はご存知の通り、セインズベリー研究所の設立に尽力し、設立当初から執行理事を務めていたデイム・エリザベス・エステベ＝コルが9月に逝去され、研究所は深い悲しみに包まれました。 長谷寺での滞在中に、彼女のための廻向法要を行っていただき、長谷寺の僧侶たちによる声明が唱えられました。 デイム・エリザベスは、日本の芸術・文化研究の偉大な提唱者であり、研究所の活動を奨励し促進することに尽くされました。 また、昨年8月に逝去された元ノリッジ芸術大学前学長のジョン・ラスト教授にも祈りが捧げられました。 関係者全員にとって心を打つ法要であり、デイム・エリザベスとラスト教授もきっと喜んでくださったことでしょう。

長谷寺訪問中に見ごろを迎えていた紅葉

法要の後、研究所は関西からの友人や支援者の皆様を迎え、長谷寺の複合施設でレセプションを開きました。 お茶と草餅が用意され、サイモン・ケイナー教授と学長の挨拶の後、出席者による自己紹介が行われました。 これは、和やかな雰囲気の中で、大学の代表者から博物館の専門家、卒業生、そして最近短期留学のためにノーフォークを訪れていた日本の高校生までが会話を楽しめるという研究所の人脈ネットワークの幅広さの象徴となりました。 観音御影大画軸をノリッジに持ち込むために尽力してくださった小林観秀僧侶にも参加していただけたことは光栄でした。 5月に行われた記念イベントと展覧会の後、長谷寺は日本の友人にノリッジの魅力を紹介する絶好の場となりました。

研究所およびUEAの在関西の友人や研究仲間を招いた長谷寺におけるレセプション

川俣住職を始めとする長谷寺による歓迎と紹介

京都・同窓会ディナー

12月2日（月）

大成功を収めた、実り多き訪問の最終日、代表団一行は京都に移動し、有名な南座での歌舞伎公演を弁当付きで楽しみました。その後、一行は無鄰菴に向かい、お茶をいただきながら、秋の紅葉で演出された壮大で静謐な背景の中で庭園を見学しました。UEAの卒業生である安藤幹雄氏の計らいで、関西を拠点とするUEAの卒業生を招いた夕食会が開催され、代表団一行はしゃぶしゃぶを楽しみ、その場を借りてUEAの学長より、UEAの日本での活動を推進するために尽力しているUEA同窓会ネットワークに感謝が伝えられました。

上： 京都、無鄰菴　下： 京都UEA同窓会の出席者

創立25周年記念行事の一環として、日本の多くのパートナー、研究仲間、友人と再会できたことを嬉しく思います。そして、私たちが滞在中に行った会議や話し合いの結果について、ご報告できることを楽しみにしています。

2024年度 国際交流基金賞

2024年10月、東京、国際交流基金本部
2025年1月、ロンドン、ジャパン・ハウス ロンドン

セインズベリー研究所が2024年（令和6年）度の国際交流基金賞受賞者のひとつに選ばれたという知らせを受け、この名誉ある賞に関連した講演シリーズの一環として研究所を代表してサイモン・ケイナー教授が二度の講演を行いました。 両講演とも、「日本の芸術、文化は、いかにして私達の心を満たすのか？」を考察したもので、この分野の研究と関わりの重要性をより広い文脈に持ち込み、文化が私たちの生活にもたらす重要な、そして測定可能な影響を実証しました。

このような評価をいただいた国際交流基金に感謝するとともに、この記念すべき2つのイベントの日英両国における開催にご協力いただいた皆様にお礼を申し上げます。

2025年に向けて

新たな年を迎えるにあたり、2025年のプロジェクトの一部を発表

2025年の幕開けに、UEA学長兼セインズベリー研究所執行理事会理事長のデイヴィッド・マグワイア教授が、サイモン・ケイナー教授とともに在英国日本国大使館に招かれ、鈴木浩大使からの歓迎を受けました。

この懇談会では、研究所とUEA双方の将来に向けての日本研究に関する計画や、日英間の教育を通じた協力関係の強化について話し合われました。

石橋財団日本美術ネットワーク・リーダー・フェローシップ・プログラム

石橋財団の寛大な支援により、2025年セインズベリー研究所はこの分野における次世代の専門家で形成される新たなネットワークの育成を目的とした、大規模な新しい取り組みを開始します。このプログラムには、2026年夏にノリッジで開催される集中レジデンス・プログラムへとつながる1年間のオンライン指導プログラムが含まれています。詳細は後日発表となりますが、2025年3月31日に応募開始、そして2025年5月30日に応募締め切りとなる予定です。

学際日本学研究会議

日本学研究センター（UEA）主催の会議が、東芝国際交流財団の惜しみない支援を受けて2025年3月3日から7日までノリッジで1週間にわたって開催されました。この会議では、上級課程の履修が許されている学部生や修士学生が、UEAの日本学研究の研究者や講師から講義を聞くだけでなく、自分たちの研究を発表する機会も提供されました。応募合格者には奨学金が全額支給されました。

第三木曜日講演会

意欲的な記念行事と並行して、世界中のオーディエンスに対して通常の活動や講演会を引き続き提供し、2024年の参加者は1000人以上に

2024年1月	Kabuki’s Nineteenth Century: Stage and Print in Early Modern Edo ジョナサン・ツヴィッカー博士（UC バークレー）
2024年2月	A cry from Wajima: the impact of the Noto Peninsula New Year’s Day Earthquake on the lacquer industry 室瀬和美氏（人間国宝）、室瀬智彌氏、山田雅美氏（V&A）
2024年3月	'Ehon Don Kihōte': The precursor of the Serizawa books ロサナ・リオス・ペレス博士（2023－2024年度ロバート&リサ・セインズベリー・フェロー）
2024年4月	Kuwabara Shisei: Documenting the US Military Base in Cold War Korea ハン・ジヘ博士（2023－2024年度ロバート&リサ・セインズベリー・フェロー）
2024年5月	Building for the Sovereign and the Buddha: Artisans and Labourers in Eighth-Century Japan エレン・ヴァン＝フーテム博士（九州大学）
2024年6月	Ways of Learning: An Apprentice Boatbuilder in Japan ダグラス・ブルックス氏（船大工、作家、研究者）
2024年7月	City life and salon culture in Kyoto and Osaka, 1770-1900 矢野明子博士（大英博物館）
2024年9月	The Japanese Lacquer Collection at Chiddingstone Castle ナオミ・コリック氏（チディングストーン城）
2024年10月	A Joint Reflection: an evening of Art, Storytelling and Performance with George Nuku セインズベリー・リサーチ・ユニットによるロバート・セインズベリー・レクチャー
2024年11月	Reflections on Yoshida: Three Generations of Japanese Printmaking モニカ・ヒンケル博士（SOAS）
2024年12月	Journey of the British Museum exhibition 'Silk Roads': A spotlight on East Asia ルク・ユーピン博士（大英博物館）

研究所の活動

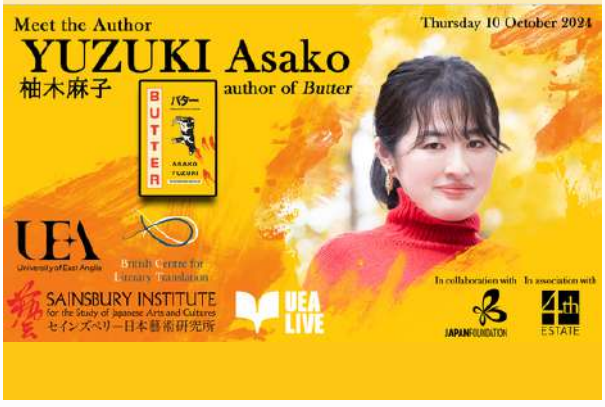
2024年もさまざまなイベントやプロジェクト、調査への取り組みを継続

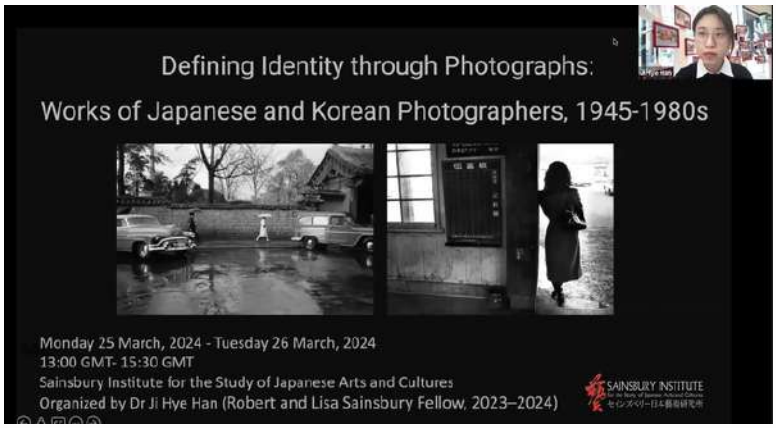
長和町ーセットフォード交流プロジェクト

フェローズ・ワークショップーロサナ・リオス博士

ロイヤル・ノーフォーク・ショー

作家・柚木麻子氏との対談

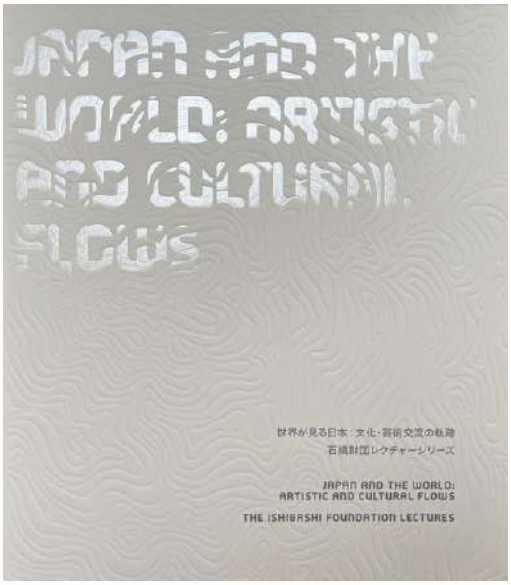




フェローズ・ワークショップーハン・ジへ博士

出版事業

2024年には、新刊2作品を制作

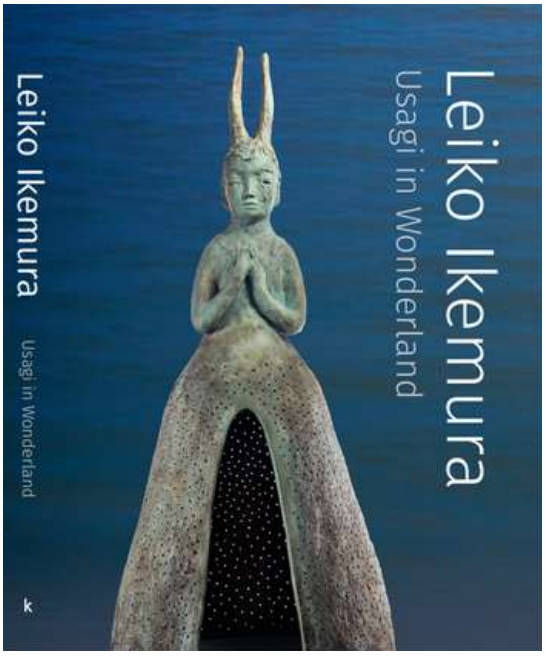


JAPAN AND THE WORLD: ARTISTIC AND CULTURAL FLOWS
世界が見る日本：文化・芸術交流の軌跡 石橋財団レクチャーシリーズ 日本語訳

2024年、石橋財団より『Japan and the world: artistic and cultural flows』の和訳版である『世界が見る日本：文化・芸術交流の軌跡』の制作に惜しみない支援をいただきました。 本書は、2014年から2018年にかけて日本で開催された石橋財団レクチャーシリーズを基に、日本の芸術や文化に関するさまざまなトピックを網羅したものです。英語版は2021年に出版されており、こちらのYouTubeチャンネルで講演の録画の一部を視聴いただけます。

LEIKO IKEMURA USAGI IN WONDERLAND

22021年にセインズベリー・センターで開催された展覧会を基に制作された『Leiko Ikemura: Usagi in Wonderland』は、 各分野の専門家による一連の小論文を通じて、イケムラ氏の作品を探究したものです。同書は、また、イギリスで初めて開催されたイケムラ氏の大規模展覧会の図録でもあります。 セインズベリー・センターにより、本書の表紙を飾っている青銅製の巨大な《うさぎ観音》が多くの人々が訪れる同センターの彫刻公園に現在設置されています。



所属研究員

記念行事と並行して、本研究所の研究員によって素晴らしい研究成果が次々と発表

サイモン・ケイナー教授

統括役所長兼考古学・文化遺産学センター長

引き続き「Archaeology of the Japan Sea」プロジェクトに取り組んでいます。沖ノ島世界遺産国際検討会では基調講演を行いました。「Nara to Norwich」プロジェクトの一環として韓国と日本への研究視察を統率しました。イングリッシュ・ヘリテッジと石橋財団との提携の下「Circles of Stone: Stonehenge and Prehistoric Japan」プロジェクトを先導しました。また、『Current Archaeology』誌に掲載された富雄丸山古墳（古代日本における最長の剣が出土）や古墳時代の考古学に関する論文に加えて、『Leiko Ikemura: Usagi in Wonderland』へも寄稿しています。

ニコル・クーリッジ・ルマニエール教授

研究担当所長

サンフランシスコのデ・ヤング美術館において2025年秋に開催予定の大規模なマンガ展のキュレーションを行っています。

エドワード・シルベスター・モースおよびピーボディ・エセックス博物館にある関連史料についての重要な研究を継続中です。

渡辺俊夫教授

日本芸術・文化遺産学名誉教授

明治美術学会40周年国際シンポジウムにおける重要な基調講演を行いました。

先ごろセインズベリー研究所の学術顧問に任命されました。

「Ilse Watanabe and the Post-war Knitwear Design in Japan」を含む、数々のプロジェクトの研究を継続中です。

ユージニア・ボグダノワ＝クンマー博士

日本芸術・文化・遺産学准教授

現在、ロンドン大学東洋アフリカ学院（SOAS）にて日本芸術史の授業を担当しています。

日本芸術の若手ネットワークリーダーと研究者のための新たなプロジェクトを先導しています。

ハイデルベルク大学にて国際会議「Narrating Japanese Art Histories: Past, Present, Future」の共同開催者を務めました。最近では、「A View of the Avant-Garde from Postwar Japanese Calligraphy」についての章を執筆し出版しています。

松葉涼子博士

日本のデジタル・アートと人文科学講師

7月に行われた複数の展覧会プロジェクトを先導したことに加えて、日本の伝統的な製紙技術に関する自身の研究を行っています。

英国各地の重要なコレクションに所蔵されている日本の美術品や書籍のデジタル化という先駆的な取り組みも継続中です。

『Hokusai's Method（北斎画法）』やニューヨーク・タイムズ紙の「2023年ベスト・アート・ブックス」の一冊に選ばれた『Mad About Painting』などの論文や書籍を出版しました。

スーザン・ウィットフィールド教授

シルクロード研究学教授

大英博物館が最近開催した「Silk Roads」展に関する会議において基調講演を行いました。

シルクロードをテーマにした数多くの講演やワークショップ、論文を英国内外で発表しています。

ノリッジ市フォーラムにおける展覧会とそのオンライン版の「Nara to Norwich」展の準備を先導しました。

アンディ・ハッチスン博士

考古学・遺産学センター研究員

ナショナル・ロッタリー・ヘリテッジ・ファンドの助成を受けた「Later Prehistoric Norfolk Project」プロジェクトを通じて、遺産・考古学・ウェルビーイングの役割に関する重要な研究を引き続き行っています。また、「Japan during the Axial Age」に関するプロジェクトに加えて、最近は『The Historian』誌のシルクロード特集号への寄稿を行うなど「Nara to Norwich」プロジェクトにも取り組んでいます。

『Nature Portfolio Journal (NPJ): Climate Action』に掲載予定の共著論文 に加えて、研究プロジェクトに関連する他の複数の論文の発表も予定しています。

事務・研究支援チームが研究所全体の活動やプロジェクトに対して大切な支援を継続的に提供

平野明

リサ・セインズベリー圖書館司書

平野明は世界水準の研究を資料面で支えるべく、図書館の蔵書構築に鋭意努めています。特に、研究所が25周年を迎える節目の年に当たり、多人数の研究者を巻き込んだ行事が企画される中、研究者の要望に応えるべく、資料の迅速な提供をしてきました。

25周年関連行事以外においても、慶應大学からの図書館職員を受け入れるなどの図書館活動を展開します。

サポートスタッフ

デニーサ・エドワーズ
総務部長

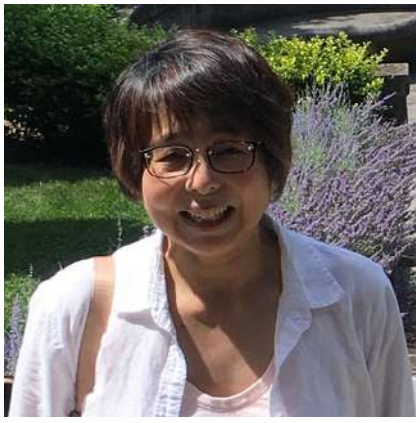
櫻井芳
研究・財務担当

オリヴィア・バトラー
イベント／プロジェクト・コーディネーター

ローラ・ホリングハースト
オフィス・アシスタント

ロバート&リサ・セインズベリー・フェロー

世界中の研究機関においてこの分野に関連する幅広いテーマを専門としている80人を超えるフェローのネットワーク



大田ポーリーンあゆみ博士

2024－2025年度ロバート&リサ・セインズベリー・フェロー

ポーリーンは美術史家であり、18世紀後半から19世紀初頭の京都の街並みや景観、近世の日本地図、日本美術における超自然現象について研究しています。

現在は、歌川国芳（1798－1861）の有名な三枚続の版画《滝夜叉魔女と骸骨妖怪（1843－47)》についてのジャーナル論文を仕上げているところです。

ロサナ・リオス・ペレス博士

2023－2024年度ロバート&リサ・セインズベリー・フェロー

ロサナは、日本の伝統的な染色技法である型染と友禅を専門とする芸術家であり、染色工芸家の柚木沙弥郎を研究対象としています。

フェローシップ期間中は「芹沢の装幀本」に関連する論文に取り組み、特に『絵本どんきほーて』と『新版どんきほーて』に関心を寄せました。紙の型染に関する視覚的な工夫や技術的な側面に焦点を当てています。

ハン・ジヘ博士

2023－2024年度ロバート&リサ・セインズベリー・フェロー

ジヘは美術史家であり、冷戦時代に米軍海外基地の主要な受け入れ国であった日本と韓国における米軍の写真表現について研究しています。

フェローシップ期間中には、博士論文の中の二つの章に出版のためにさらに取り組みました。石内都氏の最初の写真集（1947－）に関する章ならびに桑原至成氏（1936－）による1960年代から80年代の韓国における駐留米軍の写真表現を研究した章です。

謝辞

私たちは、研究所の活動や研究、プロジェクトを支援してくださったすべての方々に深く感謝いたします

2024年、研究所のイベントにご協力いただいた下記の方々や団体に感謝申し上げるとともに、研究所の活動や研究を可能にし続けてくださっている他の多くの友人や支援者の皆様に改めてお礼を申し上げます。

安藤幹雄氏
立命館大学アート・リサーチセンター
Cambridge Archaeological Unit
大和日英基金
在英国日本国大使館
駐日英国大使館
English Heritage
The Forum Trust
福岡県人づくり・県民生活部文化振興課九州国立博物館・世界遺産室
Gatsby Charitable Foundation
グレイトブリテン・ササカワ財団
奈良・長谷寺
北斎館
黒曜石ミュージアム
公益財団法人　石橋財団
国際交流基金
ジャパン・ソサエティ
Ambassador Julia Longbottom
Paul Madden CMG
MORIS
奈良県ビジターズビューロー
National Centre for Writing
National Lottery Heritage Fund
Norfolk and Norwich Festival
Norwich Cathedral
Norwich City Council
NTT Art Technology／アルステクネ
The Restoration Trust
Royal Academy of Arts
Royal Asiatic Society
Sainsbury Centre
世利之氏
The South Asia Collection
St Peter Mancroft
高梨寿氏
Thetford Ancient House Museum
東芝国際交流財団
イギリス ヤクルト販売株式会社
公益財団法人吉野石膏美術振興財団

写真および画像の版権：

Olivia Butler
森脇今日子
Andi Sapey

SAINSBURY INSTITUTE
for the Study of Japanese Arts and Cultures
セインズベリー日本藝術研究所

@sisjac_uea

@sisjac.org

@sisjac_uk

@sisjac.bsky.social

SIGN UP TO OUR MAILING LIST HERE